

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000715	事業の開始年月日	平成31年4月1日
		指定年月日	平成31年4月1日
法人名	有限会社 スマイル介護サービス		
事業所名	スマイル汲沢の家		
所在地	(〒245-0062) 神奈川県戸塚区汲沢1050-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年12月20日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	http://center.rakuraku.or.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・現在、面会に関しては、事前の予約制を取っています。 あらかじめホームに連絡してもらい1回の面会に対して15分～30分程の面会にいただいています。(ご利用者様の居室にて)・外部との交流は殆どないため、毎日の生活を楽しくて頂けるよう、毎月の誕生日会・日々のレクリエーション活動 季節の行事を充実させるように努力しています。・天気の良い日はスタッフと共にホーム周辺のお散歩、スーパーへの買い物に行っています。・季節ごとに行事食を提供することで、季節感を感じて頂いています。・オムツ類をユニ・チャーム様と提携させて頂き、質の良いものを提供。 年に1度、排泄の研修なども行っていきたくと考えています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和8年1月30日	評価機関 評価決定日	令和8年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇季節感が得られるような行事の開催 ・利用者は、季節を通じて雛祭り、夏祭り、秋祭り、ハロウィン、クリスマス、正月等に、希望するおやつを用意してもらって季節感を感じる集まりを楽しんでいる。 ・今年は、近くの国道に出て箱根駅伝(8区)を観戦し応援をした。外出が難しい利用者はテレビ観戦で応援をしていた。 ・利用者が職員と一緒に作成した折り紙で作った鶴や絵馬、おみくじ等をリビングに飾り、季節感を演出している。 ◇管理者、ケアマネ、職員の共有による介護支援 ・管理者、ケアマネが中心となり、職員合同のカンファレンスを行い、全員が利用者情報を共有することで、介護ケアに活かしている。 【事業所が工夫している点】 ◇おむつの活用方法 ・大手の紙おむつメーカーと連携し、事業所使用の紙おむつ使用方法の講習会を開いたり、新しい紙おむつの紹介を得て介護ケアに活かしている

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル汲沢の家
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と3階共有スペースの目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念の書かれている事を意識しながら業務に当たるよう心掛けています。	・事業所理念は玄関と3階共有スペースに、「介護はお客様の困っていること、望んでいることをお客様の立場に立って誠実に解決させて頂くこと」を掲示し職員間で共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ・インフルエンザが変わらず猛威を振るっています。地域との交流は出来ていませんが、地域の一員であることの表現として、建物周囲の美化清掃に気をつけています。	・自治会には、まだ加入に至っていないが地域ケアプラザから地域の夏祭りやイベントの情報があり、民生委員からも地域情報の連絡がある。 ・事業所周辺の清掃を行い、地域の美化活動に努めている。	・コロナ禍もあって、自治会に加入となっていませんが、地域との繋がりのため自治会との交流が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流ができていないため、事業所としての貢献は難しいですが、スタッフはみな認知症対応のプロとして、街中でもお困りの方を見かけたらお声がけをする、知り合いの方の相談に乗る、など心がけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の開催に関しては、2か月に1度開催しています。感染症などを鑑み見送ることもあります。報告書を作成する折に、スタッフ間で改めて2か月の振り返りを行っています。	・運営推進会議は2か月に1回開催している。民生委員、地域プラザ職員の参加があり、民生委員から地域の感染症の報告があった。 ・会議では事故・ヒアリハットの内容、改善策を報告している。職員間で振り返りを行って、事故報告を作成している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一度、報告書を送り事業所の実情・取組みをお知らせしています。生活保護のご利用者様が多くいらっしゃるので、生活支援課の担当者とも緊密に連携しています。	・運営推進会議の報告書を区高齢障害支援課に送付している。 ・区生活支援課の担当者は、年に1回訪問があるので、事業所から状況報告をしている。 ・介護保険の更新手続きは家族に代わって代行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、身体拘束ををしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価を繰り返し行っています。おかしいなど感じたらすぐに話し合える環境を整えています。	・身体拘束委員会を3か月に1回開催している。委員会の結果報告はすべての職員に伝えている。 ・研修は年2回行っている。研修後再発防止について話し合い拘束をしないケアに努めている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のテーマとして取り組み、虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を理解し、カンファレンス時などに共通認識を持つよう努めています。 声掛けの仕方・言葉使いなど、再確認をしています。	・虐待防止委員会は年3回開催している。職員の研修は年2回行っている。 ・虐待の防止を図るため、声掛けの仕方や言葉使いなど共通認識を持つように話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様については、後見人・保佐人様と、生活保護受給の入居者様については、生活支援課担当者様と、情報交換を行い連携を取っています。 職員も理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を実際に感じていただき、不安の軽減に努めています。契約時にも十分な時間をかけて説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心してご入所頂けるよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設けています。お電話にてご様子をお伝えする際にご家族様の意見・要望を伺っています。ご本人様のお気持ちは都度傾聴し、ケアプランにも反映しています。面会に関しては、予約制を取っています。	・家族の訪問は予約制になっている。30分を目安に居室で面会している。利用者、家族の意見・要望は面会時や電話応対時に聞いている。 ・利用者は家族と食事会に出かけた外泊するときもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ・管理者は常に話し合い、入居者様の状態の変化に対し業務の改善（対応の改善）により解決の方法を探ります。代表は都度報連相を受け対応しています。	・管理者は月例会議や面談だけでなく日常の業務の中で相談を受ければ即対応するようにしている。職員からは、シフト調整や休日、連休の勤務についての相談がある。 ・管理者は日頃から職員と会話を積極的にこなうようにしている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を伝えることができます。外部研修に参加する機会を得て、介護や認知症対応について知識を高めることができます。研修内容は、職員同士でも共有します。	・キャリアパス制度があり、職員は外部研修で介護福祉士実務者研修や、会社からの指名にて認知症介護実践リーダー研修参加し、資格取得に努力している。資格取得後、一部手当がある。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動、排泄介助等の研修を行う際は、資料での説明よりも実践を重視しています。お一人での対応に不安のある職員には、ベテランの職員がついて指導し、スキルアップを図ります。	・社内研修は年間計画に基づいて行い、実践が必要である場合は管理者が手本を見せて指導している。 ・本部から毎月、今月のテーマとして、研修資料が配布され職員は研修後、レポートを提出している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加を推奨する職場環境にはありますが、現状は多くの研修には参加出来ていません。管理者が1部研修に参加しています。12月からスタッフ1名が研修に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者様の生活歴やニーズを把握しています。ご入居前にいらした病院・施設・居宅のケアマネさんからも情報をいただいています。ご入居後には、日々の会話の中でも不安なこと・ご要望等吸い上げる努力をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時やご自宅を訪問した際に、ご家族様の要望・ニーズの聞き取りはもちろんのこと、ご家族様の利用者様に対する思い等も伺い、お気持ちに寄り添った対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や、入居者様・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するよう務めています。ホームではできないサービスについてもご案内しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、人生の先輩として尊敬の念を忘れずに接しています。それぞれの得意分野においてはスタッフが教えを請いながら、共に活動をし、笑い合い、支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や、電話等により、ご様子を細かくお伝えし、ご家族様からはその時々のお思いや要望を伺い、援助に取り入れています。入居者様と一緒に支えていることを実感していただけるものと考えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては、事前の予約を取ってもらい15分～30分くらいの時間にして頂いています。面会に来られないご家族には希望があればお電話にて交流していただいています。以前からご利用の美容院等への付き添いも手配が可能です。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人の面会は、家族の知り合い以外は基本的に家族の了解を得てから面会をしている。 ・家族、友人の面会は事前に予約をしてもらい居室で面会をしている。 ・訪問時に家族から意見や要望を聞いている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格・関係性・お食事のとり方・レクレーションへの参加の様子など、様々な要因を考慮してテーブルでのお席の配置をしています。場面ごとに席を移動することもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	許可が得られた場合にはご入院先に面会に行っています。ご家族様に対しても、必要なフォローがあれば、引き続きご連絡を差し上げています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の要望に耳を傾け、一人一人の思いや希望を最優先にしたケアを心がけています。困難な場面でも丁寧なお声がけを心がけ、スタッフ一人では難しいことは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いや意向については、家族からの情報も把握するようにしている。 ・事業所として利用者が、やりたい事や望んでいることを、かなえられるように職員で話し合っている。 ・連絡ノートで利用者情報を共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさん、前施設の相談員さん、入院先の看護師さん・相談員さんからも情報をいただいています。ご家族様からは細かなこだわり等も聞き取りし支援に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様々な状況を丁寧に観察し、一人ひとりの能力・生活パターン、また、その日ごとの心身の状態を正しく理解するよう努めています。認知症が進行し、状態が定まらない方、ご高齢で体調の変化の大きい方については、特に注意をして小さい変化を見落とさずに全職員で情報を共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、本人や家族の希望を最優先に、ケアに関わっているスタッフからの情報・意見も取り入れています。 主治医・訪問の看護師・薬剤師等のアドバイスも参考にしています。	・入居時に利用者、家族の意向をくみ取り暫定ケアプランを作成し、モニタリングを行って本計画を作成している。短期計画6か月、長期計画1年としている。毎月のカンファレンスで利用者の体調変化があった場合は見直しをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、変化については業務日誌に記入しています。大きな変化等は申し送りノートにも記載に、職員間で共有・理解しケアに生かしています。これらの情報は計画の見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活史を尊重し、ケアプランに添いつつも場面ごとに柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の様子をみながらホーム近くを散歩したり、近所のスーパーに買い物に出かけたりしています。 本来の活動が可能になれば、よりこころ豊かに暮らせるように支援したいと考えています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に確認の上、希望する病院にて受診しています。 往診医とは一人一人契約して頂いています。 緊急時には看護師の判断で主治医と連携しています。	・内科医の訪問診療は月1回が2医院、月2回が1医院となっており、歯科医は毎週、看護師は週1回の訪問がある。 ・利用者の通院付添いは原則家族となっているが、不可能な場合は自費で介護ヘルパーに依頼する事になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が来訪し、バイタルチェック、状態の観察、問診・相談を行って全員の状態を把握しています。常に連携を取り、緊急時には対応の指示・訪問しての処置をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDR、看護師の指示で入院となった場合にも診療情報の提供等ご協力をお願いしています。入院先の病院とも連携し、退院へ向けての相談等行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応・延命についての説明を行っており、特に救急搬送時に際に延命を希望されるかについては丁寧に聞き取りをしています。実際に重症化された場合には、DRから直接ご家族様に状況を説明していただき、その後の方針を検討しています。	・入所時に重度化の場合の事業所方針を利用者と家族に説明している。 ・看取りケアの研修は8月に行なった。看取りに立ち会った職員の精神的ケアをするために看取後に振り返りを行なっている。	・重要事項説明書には看取り後「看取り介護終了カンファレンス」を行なうことが記されています。看取りの精神的負担を軽減するためにもカンファレンスの実行が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修資料を取り入れ、マニュアルを基に繰り返し勉強しています。日頃不安に思うことは、職員同士で話し合い、学び合うことで納得できる用努力しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認をするだけでも避難訓練になると消防署立ち入り際、アドバイスをもらい実施しました。9月に緊急警報システムについての研修を行いました。マニュアルを良く読み込み、普段からのイメージトレーニングを行っています。	・BCPを作成し、災害時と感染時の対策を明記している。備蓄品はBCPのリストにしたがって1階倉庫に保管している。 ・避難訓練として、非常警報システムの点検、消火器訓練、階段を使った避難等を行なった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格にも配慮し、個々に合わせた言葉かけや対応を心がけています。 スタッフに不適切な言葉遣いや態度が見られた時には、管理者・フロアリーダーから改めて尊厳についての意識を高めるよう伝えています。	・利用者のプライバシー確保として、トイレ誘導時の声掛けの仕方、トイレ使用中はカーテンを掛ける、入浴は原則同性介助とする等に気を付けている。 ・接遇研修を7月に実施した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者様には、職員が決めたことを押し付けることなく、ご自身で選んだり決めたりすることをゆっくりと待てるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、それぞれの意思・尊厳を保てるよう支援しています。状況に応じて、個別の対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みを尊重し、その人らしい身だしなみができるよう配慮しています。季節に応じた衣服選び入浴の前に衣類を一緒に選んでもらったりとお手伝いもしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操を行いその中で献立を話題にして体操・会話を楽しみます。 テーブルを拭く、手指の消毒など、できる方にお手伝いいただいています。	・献立業者に交渉して肉を鳥や魚への変更を依頼したり、おかずによってはご飯をパンに変更するなど、利用者の希望を叶えている。 ・特別食として正月やクリスマスには寿司やピザを出している。誕生会にはケーキでお祝いをする。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な量を摂取できているか確認しています。咀嚼・嚥下力に合わせた食事形態を工夫して提供しています。とろみをつける、お好きな味のものを提供するなど水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。夕食後には入れ歯の消毒も行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間、量を記録することで、一人ひとりの排泄パターンを把握して個々にあった支援ができています。個々に合ったオムツ・パットを検討使用してもらっている。プライドを傷つけないように、トイレにお誘いする、おむつを交換する時などのお声掛けには十分配慮しています。	・排泄介助マニュアルを策定している。排泄表により利用者の排泄パターンを把握し、時間誘導をしている。 ・夜間はリハビリパンツ利用者をオムツに変更し、眠りを優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分制限のない方には、水分摂取量が不足しないよう気を付けています。看護師の指導により、腹部マッサージや、保温などそれぞれに合った排泄支援を行っています。便秘の予防のためにも毎日体操を行っています。マグミット等の下剤も過剰にならないよう注意をしながら、必要に応じて使用しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインやご様子から体調を見極め、ご本人に納得していただくからお風呂場へご案内しています。お着替えを選ぶのが楽しみな方、入浴中におしゃべり、歌を楽しまれる方もいらっしゃいます。	・入浴マニュアルを制定している。入浴は週2回、午前中に行なっている。入浴拒否のある利用者への対応の仕方を研修で学んでいる。 ・女性利用者には全員同性介助を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安楽にお休みいただけるような言葉がけを心がけています。室内の温度や照明を好みに合わせて調節しています。施設全体としても加湿器を用意していますが、個別に居室にもお持ちの方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と服薬、特に臨時に処方された薬はミスのないよう周知徹底しています。薬剤師さんにより、それぞれ一包化・日付お名前等を記載していただいております、投薬ミスのないよう必ず二人以上で確認し、服用を確認したサインをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や、楽しみ・喜びにつながるように意識しながら、お得意なことができるようなレクリエーションの工夫をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・感染状況を見てからになります。個別にご家族様とお出かけになったり、お食事に行かれたりすることも可能です。ご家族様の対応が困難な方には自費のヘルパーをご利用いただける契約をご案内しています。	・天気の良い日には、事業所を出て外気浴を行なっている。歩ける利用者は事業所周辺を約15分程度散歩している。外出できない利用者は、テレビで体操をしたり、事業者内で歩行練習をして体力維持を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の残存能力を見極め、必要に応じてお買い物の代行・付き添いをしています。基本的には現金を預かることはしておらず、施設で立替、ご家族様へ請求の形を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々のご様子を面会時やお電話にてお伝えしております。 ご希望に応じて電話をお使いいただけます。ご自分で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。 切手の購入・投函、も請け負います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の花を生けたり、入居者様の作品を飾ったりしています。壁面には、季節の装飾を施し、折り紙・塗り絵・書道等の作品をご利用様と一緒に作成し、飾っています。 温かみのある、居心地の良い空間づくりをしています。	・温湿度管理は、温度は23～4℃、湿度は50%程度にしており、利用者の体感で温湿度調節をしている。清掃は夕方職員が行ない、消毒は日中と夜に1回行なっている。 ・リビングは光が入り明るく、利用者の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士が集い、談話やテレビ鑑賞を楽しめます。 気の合う方同士で席を移られておしゃべりをする場面もあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅から使い慣れた家具をお持ちいただいています。ご家族様からのお手紙・お写真など飾っていらっしゃいます。	・居室にエアコン、ベッド、クローゼット、防炎カーテンを事業所で設備しており、利用者は人形、姿見、位牌等で自分の部屋を作っている。 ・居室の清掃は夜勤者が朝行なっており、衣替えや整理整頓を職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱するものの排除等、それぞれが安心して生活できるような環境づくりを心がけています。		

事業所名	スマイル汲沢の家
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と3階共有スペースの目の届く場所に掲示しています。各スタッフが理念の書かれている事を意識しながら業務に当たるよう心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ・インフルエンザが変わらず猛威を振るっています。地域との交流は出来ていませんが、地域の一員であることの表現として、建物周囲の美化清掃に気をつけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流ができていないため、事業所としての貢献は難しいですが、スタッフはみな認知症対応のプロとして、街中でもお困りの方を見かけたらお声がけをする、知り合いの方の相談に乗る、など心がけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の開催に関しては、2か月に1度開催しています。感染症などを鑑み見送ることもあります。報告書を作成する折に、スタッフ間で改めて2か月の振り返りを行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に一度、報告書を送り事業所の実情・取組みをお知らせしています。生活保護のご利用者様が多くいらっしゃるので、生活支援課の担当者とも緊密に連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、身体拘束ををしないケアの実践を常に考え、意識し、学び、自己評価を繰り返し行っています。おかしいなど感じたらずぐに話し合える環境を整えています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修のテーマとして取り組み、虐待防止法を理解しています。精神的な苦痛への配慮を理解し、カンファレンス時などに共通認識を持つよう努めています。声掛けの仕方・言葉使いなど、再確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者様については、後見人・保佐人様と、生活保護受給の入居者様については、生活支援課担当者様と、情報交換を行い連携を取っています。職員も理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人様やご家族様に見学をお願いしています。施設の雰囲気を実際に感じていただき、不安の軽減に努めています。契約時にも十分な時間をかけて説明し、疑問・質問にお答えし、納得を得た上で安心してご入所頂けるよう心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見箱を設けています。お電話にてご様子をお伝えする際にご家族様の意見・要望を伺っています。ご本人様のお気持ちは都度傾聴し、ケアプランにも反映しています。面会に関しては、予約制を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ・管理者は常に話し合い、入居者様の状態の変化に対し業務の改善（対応の改善）により解決の方法を探ります。代表は都度報連相を受け対応しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度があり、代表との面談時に希望を伝えることができます。外部研修に参加する機会を得て、介護や認知症対応について知識を高めることができます。研修内容は、職員同士でも共有します。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修で移乗や移動、排泄介助等の研修を行う際は、資料での説明よりも実践を重視しています。お一人での対応に不安のある職員には、ベテランの職員がついて指導し、スキルアップを図ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加を推奨する職場環境にはありますが、現状は多くの研修には参加出来ていません。管理者が1部研修に参しています。今後は、積極的に交流を図りたいと考えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、入居者様の生活歴やニーズを把握しています。ご入居前にいらした病院・施設・居宅のケアマネさんからも情報をいただいています。ご入居後には、日々の会話の中でも不安なこと・ご要望等吸い上げる努力をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時やご自宅を訪問した際に、ご家族様の要望・ニーズの聞き取りはもちろんのこと、ご家族様の利用者様に対する思い等も伺い、お気持ちに寄り添った対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や、入居者様・ご家族様それぞれが求めているものを理解し、その時に必要なニーズを把握するよう務めています。ホームではできないサービスについてもご案内しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、人生の先輩として尊敬の念を忘れずに接しています。それぞれの得意分野においてはスタッフが教えを請いながら、共に活動をし、笑い合い、支え合うことができます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や、電話等により、ご様子を細かくお伝えし、ご家族様からはその時々のお思いや要望を伺い、援助に取り入れています。入居者様と一緒に支えていることを実感していただけるものと考えています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては、事前の予約を取ってもらい15分～30分くらいの時間にして頂いています。面会に来られないご家族には希望があればお電話にて交流していただいています。以前からご利用の美容院等への付き添いも手配が可能です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格・関係性・お食事のとり方・レクレーションへの参加の様子など、様々な要因を考慮してテーブルでのお席の配置をしています。場面ごとに席を移動することもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	許可が得られた場合にはご入院先に面会に行っています。ご家族様に対しても、必要なフォローがあれば、引き続きご連絡を差し上げています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の要望に耳を傾け、一人一人の思いや希望を最優先にしたケアを心がけています。困難な場面でも丁寧なお声がけを心がけ、スタッフ一人では難しいことは全職員で話し合い、より良い方法を模索し検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を詳細に把握します。在宅のケアマネージャーさん、前施設の相談員さん、入院先の看護師さん・相談員さんからも情報をいただいています。ご家族様からは細かなこだわり等も聞き取りし支援に生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様々な状況を丁寧に観察し、一人ひとりの能力・生活パターン、また、その日ごとの心身の状態を正しく理解するよう努めています。認知症が進行し、状態が定まらない方、ご高齢で体調の変化の大きい方については、特に注意をして小さい変化を見落とさずに全職員で情報を共有し対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には、本人や家族の希望を最優先に、ケアに関わっているスタッフからの情報・意見も取り入れています。 主治医・訪問の看護師・薬剤師等のアドバイスも参考にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、変化については業務日誌に記入しています。大きな変化等は申し送りノートにも記載に、職員間で共有・理解しケアに生かしています。これらの情報は計画の見直しの参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努めています。個々の生活歴を尊重し、ケアプランに添いつつも場面ごとに柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の様子をみながらホーム近くを散歩したり、近所のスーパーに買い物に出かけたりしています。 本来の活動が可能になれば、よりこころ豊かに暮らせるように支援したいと考えています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に確認の上、希望する病院にて受診しています。 往診医とは一人一人契約して頂いています。 緊急時には看護師の判断で主治医と連携しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が来訪し、バイタルチェック、状態の観察、問診・相談を行って全員の状態を把握しています。常に連携を取り、緊急時には対応の指示・訪問しての処置をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診のDR、看護師の指示で入院となった場合にも診療情報の提供等ご協力をお願いしています。入院先の病院とも連携し、退院へ向けての相談等行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応・延命についての説明を行っており、特に救急搬送時に際に延命を希望されるかについては丁寧に聞き取りをしています。実際に重症化された場合には、DRから直接ご家族様に状況を説明していただき、その後の方針を検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修資料を取り入れ、マニュアルを基に繰り返し勉強しています。日頃不安に思うことは、職員同士で話し合い、学び合うことで納得できる用努力しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認をするだけでも避難訓練になると消防署立ち入り際、アドバイスをもらい実施しました。9月に緊急警報システムについての研修を行いました。マニュアルを良く読み込み、普段からのイメージトレーニングを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格にも配慮し、個々に合わせた言葉かけや対応を心がけています。 スタッフに不適切な言葉遣いや態度が見られた時には、管理者・フロアリーダーから改めて尊厳についての意識を高めるよう伝えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる入居者様には、職員が決めたことを押し付けることなく、ご自身で選んだり決めたりすることをゆっくりと待てるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、それぞれの意思・尊厳を保てるよう支援しています。状況に応じて、個別の対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好みを尊重し、その人らしい身だしなみができるよう配慮しています。季節に応じた衣服選び入浴の前に衣類を一緒に選んでもらったりとお手伝いもしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に口腔体操を行いその中で献立を話題にして体操・会話を楽しみます。 テーブルを拭く、食器のかたづけ、手指の消毒など、できる方にお手伝いいただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な量を摂取できているか確認しています。咀嚼・嚥下力に合わせた食事形態を工夫して提供しています。とろみをつける、お好きな味のものを提供するなど水分摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施しています。夕食後には入れ歯の消毒も行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間、量を記録することで、一人ひとりの排泄パターンを把握して個々にあった支援ができています。個々に合ったオムツ・パットを検討使用してもらっている。プライドを傷つけないように、トイレにお誘いする、おむつを交換する時などのお声掛けには十分配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分制限のない方には、水分摂取量が不足しないよう気を付けています。看護師の指導により、腹部マッサージや、保温などそれぞれに合った排泄支援を行っています。便秘の予防のためにも毎日体操を行っています。マグミット等の下剤も過多にならないよう注意をしながら、必要に応じて使用しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサインやご様子から体調を見極め、ご本人に納得していただくからお風呂場へご案内しています。お着替えを選ぶのが楽しみな方、入浴中におしゃべり、歌を楽しまれる方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安楽にお休みいただけるような言葉がけを心がけています。室内の温度や照明を好みに合わせて調節しています。施設全体としても加湿器を用意していますが、個別に居室にもお持ちの方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と服薬、特に臨時に処方された薬はミスのないよう周知徹底しています。薬剤師さんにより、それぞれ一包化・日付お名前等を記載していただいております。投薬ミスのないよう必ず二人以上で確認し、服用を確認したサインをしています。また、日々の状態観察をし、医師・看護師に伝え、適正な処方につなげています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や、楽しみ・喜びにつながるように意識しながら、お得意なことができるようなレクリエーションの工夫をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・感染状況を見てからになります。個別にご家族様とお出かけになったり、お食事に行かれたりすることも可能です。ご家族様の対応が困難な方には自費のヘルパーをご利用いただける契約をご案内しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の残存能力を見極め、必要に応じてお買い物の代行・付き添いをしています。基本的には現金を預かることはしておらず、施設で立替、ご家族様へ請求の形を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々のご様子を面会時やお電話にてお伝えしております。 ご希望に応じて電話をお使いいただけます。ご自分で携帯電話をお持ちの方もいらっしゃいます。 切手の購入・投函、も請け負います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の花を生けたり、入居者様の作品を飾ったりしています。壁面には、季節の装飾を施し、折り紙・塗り絵・書道等の作品をご利用者様と一緒に作成し、飾っています。 温かみのある、居心地の良い空間づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者様同士が集い、談話やテレビ鑑賞を楽しめます。 気の合う方同士で席を移られておしゃべりをする場面もあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅から使い慣れた家具をお持ちいただいています。ご家族様からのお手紙・お写真など飾っていらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、トイレやドアの目印、混乱するものの排除等、それぞれが安心して生活できるような環境づくりを心がけています。		

目標達成計画

事業所名

スマイル汲沢の家

作成日

令和 7年 12月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ・インフルエンザの感染状況が不透明であり面会を制限付きの予約制にしています。外部との交流もほとんどありません。	コロナ・インフルエンザが落ち着いたら、地域の方が気軽に訪ねてくださり、ご家族様がお好きなタイミングで遊びにいらっしゃれる施設でありたい。	ご家族様、地域の方をお招きする催しものの企画を考えたい。	1年
2		ご利用者様の身体能力、車椅子使用者、職員数が少ないことに加え、施設周辺の環境要因もあり、（車通りが多いこと、坂道が多いこと）外出がままならないこと。	車いすの方でも外出の機会が持てるようにしたい。介護タクシー等も利用していく。来春に開催出来るよう話し合いを始めています。	シフトに入っていないスタッフさんの応援をお願いして外出計画を立てる。少人数で車を利用して、安全な公園等にお連れする。	1年
3		同上	施設敷地内でも外の空気に触れる場所を作りたい。	敷地裏手の空きスペースを整備して、ご利用者様と一緒に花壇や菜園を作る機会を作りたい。椅子なども設置する。	1・2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。